

9月5日に米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会が開催されましたので、お知らせします

署名について

米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会で取り組んでいました反対の署名について、各自治体から報告をいただきました。

各自治体の報告を合計しますと、8月末で約6万筆以上の反対のみなさんの意志が、署名というかたちで届けられています。

署名は、熊毛郡内の住民のみなさんだけでなく、出郷者の方や、観光などで種子島や屋久島に来島経験のある方など熊毛地域の素晴らしさを知る全国の方々から届けられています。

多くの署名には、種子島及び屋久島の現在の豊かな自然や人を残して欲しいとメッセージが添えられています。

みなさんの種子島及び屋久島を思う気持ちに感謝いたします。

みなさんの意志を受けました署名につきましては、今後、国へしっかりと届けます。

なお、署名につきましては、今後も継続していきますので、御協力よろしく願いします。

協議会の今後の活動について

米軍基地等馬毛島移設問題対策協議会の今後の取り組みについて確認がされましたので、お知らせします。

抗議・要請活動について

みなさんからいただいた署名を受けて、県知事への状況報告を行います。

また、新内閣が発足し、防衛大臣も替わったことから、改めてしっかりと反対の意思を伝える必要がありますので、国への要請活動を行っていきます。

周辺自治体との連携体制を構築について

陸上空母離着陸訓練の馬毛島移転案に反対する意見書を全会一致で可決した南大隅町は馬毛島の北約 35 キロメートルに所在しており、三島村についても、馬毛島に最も近い竹島は約 40 キロしか離れていないなど、熊毛地区のみの問題ではないということから、今後周辺自治体と連携体制を構築していくこととしています。

騒音の実態把握について

「協議会だより（H23.9.1 発行号）」でもお知らせしましたが、学習会の講師の方の説明によると、厚木基地周辺では、13 キロメートル以上離れた場所でもその騒音はひどく、「爆音」と呼ばれ、住民の生活に影響が出ていると話がありました。

そのため、現在実際に戦闘訓練機による訓練の行われている基地で騒音の実態把握や、基地が抱える課題等の調査を行うことが決定されました。

一部では、試験飛行を行うと報道がされましたが、過去、沖縄で行われた基地を設置するための試験飛行を例にしても、本来の訓練飛行をすることはなく、また、騒音も現実とはかけ離れた飛行であったことが分っています。

集会について

反対集会については、7月に行われた協議会の中で開催することが決定されておりましたが、今回の協議会でも11月以降に集会を開催するよう準備を行うことが確認されました。

FCLP の訓練場所については、これまでもいくつかの島が候補地とされ、防衛省が働きかけをおこない、そして断念しています。

三宅島では、1984 年から防衛省（当時は防衛庁）と約 4 年間攻防が続き、住民を説得するため防衛省が現地事務所を設置、調査工事費の計上までされました。

しかし、三宅島でも署名に取り組み、防衛省へ反対の要請活動を行いました。

また、5 回の全島集会を開催し、住民の反対の意思を国へしっかり届けました。

2003 年には、広島県佐伯郡沖美町（現在は江田島市）の町長が、瀬戸内海の無人島である大黒神島に滑走路を建設し、FCLP を誘致する計画を発表しました。

しかし、町民や議会からの激しい反発、周辺自治体からの反対の声に、わずか 7 日後には町長が辞任し、誘致は断念されました。

住民生活に影響がない施設であれば、このような問題は発生しません。

FCLP については、今までも住民生活を混乱させてきています。